

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-32	高等学校	国語	国語表現	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	国表 702	国語表現		

## 1.編修の基本方針

### ①実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、適切に使いこなす力を養う。

- ・他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能を理解し、適切に使うことができるよう、九つの通常単元(「分かりやすく説明しよう」「身体で表現しよう」など)と、三つの特別単元(「表現とは何か」「表現と読書活動」「心をつかむ表現」)からなる構成とし、幅広い内容を取り上げました。
- ・単元の学習で登場する「モード」や「5W1H」などの知っておきたい用語について、取り立てて解説しました。
- ・「接続の言葉」や『「問い」の活用』などの汎用的な内容については、コラム「スキルアップ」に示し、他の単元の活動でも参照できるようにしました。
- ・通常単元末にはコラム「表現の窓」を設け、その単元の内容に広い意味で関わる示唆に富んだ文章を掲載し、その単元の活動を行う際に参考にできるようにしました。

### ②実社会における他者との多様な関わりの中で、伝え合う力、自分の思いや考えを広めたり深めたりする力を高める。

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動の素材や設定については、社会生活で必要とされるさまざまなシチュエーションやテーマに関わるよう配慮しました。
- ・通常単元では、最初の見開きページで、その単元で扱うテーマや活動について主体的に取り組めるよう、テーマや用語の定義などを確認できるようにしたり、今までの体験を振り返る設問を設けたりしました。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動の中で伝え合う力を養えるよう、各活動の際の要点やチェックポイントを具体的に示し、どのようにすればより伝わるのかを明らかにするようにしました。
- ・単元の最後に「リフレクション」の項目を設け、単元の学習を振り返り、受け止め、まとめ、今後の活用を考えるための指針を示しました。
- ・附録に、表現活動をする際に活用できる「思考ツール」の手順を示したページや、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習を見通したり振り返ったりすることができる「この教科書で学ぶこと」を設けました。

### ③進んで読書に親しみ、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。

- ・特別単元「表現と読書活動」では、偶然持ち寄った本のテーマを見つけて発表したり、グループで分担して1冊の本を要約したりなど、読書や本に関わるユニークな表現活動を取り上げ、生徒の読書意識を喚起し、読書の幅を広げられるよう配慮しました。
- ・特別単元「心をつかむ表現」では、小説を元に楽曲を制作しているアーティストや、プロのスキージャンプの選手が、いかに心を砕いて言葉を選び、表現しているかについて語る文章を掲載し、言葉を通じて他者や社会と関わることの大切さについて考えを深められるようにしました。

## 2.対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>表現とは何か</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し手の気持ちに焦点を当てて話を聞くことで傾聴や共感を体感したり、実物や絵を見せずに折り紙の折り方を説明することで言葉だけで伝えることの難しさを感じたりする活動を通じて、職業および生活で求められる聞く力や伝える力を養えるようにしました。(第2号)</li> </ul>	→6、9ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的な経緯を踏まえながら日本社会の特徴を挙げ、国際社会で生きていくために説明し合える力が必要であると述べる文章を用意しました。(第5号)</li> </ul>	→10～11ページ
<b>1 分かりやすく説明しよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や絵の内容を他者に分かりやすく説明する活動を通じて、伝え合う力を育む教材を用意しました。(第3号)</li> </ul>	→18～19ページ、22～25ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生前と発生時の行動について、小学生に説明する活動を通じて、生命を守ろうとする心がけを育む教材を用意しました。(第2号)</li> </ul>	→22～23ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続の言葉の種類と使い方を学び、論理的関係を適切に表現する力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→28～29ページ
<b>2 身体で表現しよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体表現に注目し、他人を演じたり、インプロに取り組んだりすることを通じて、どのような身体表現がどんな印象を与えるかについて意識させる教材を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→34～43ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>インプロで自分の創造性を引き出したり、相手にいい時間を与えたりということを繰り返し練習することが、正解が見えなくても他の人と協力しながら進んでいく力を養うと述べる文章を用意しました。(第3号)</li> </ul>	→44～45ページ
<b>3 「問い」を考えよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューを企画・実施し、まとめる活動を通じて、質問の種類や質問の仕方を学び、適切に質問する力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→48～49ページ、54～57ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話のかけ方や、メールや手紙の書き方を例とともに示し、電話をかけあうロールプレイやメールを送りあう課題を設けて、社会で必要とされる知識と表現力を身につけられるようにしました。(第1号)</li> </ul>	→50～53ページ
<b>4 「自分」を表現しよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職や進学に向けた自己分析の仕方を取り上げ、自分の長所や性格などを将来の職業を結び付けて考えられるようにしました。(第2号)</li> </ul>	→68～69ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集の方法や、提出書類・面接で訴えるべき内容を順序だてて紹介し、また履歴書・志望理由書の書き方や、面接の基本マナー、さまざまな面接の形式を示し、就職や進学に向けた準備が行えるようにしました。(第2号)</li> </ul>	→70～79ページ
<b>5 論理的な文章を書こう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の労働問題について問題提起し主張を論述する活動を通して、考えを広げ深める力を養う教材を用意しました。(第1号)</li> </ul>	→86～93ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化の中、社会で求められるコミュニケーション能力について書かれた課題文を読み小論文を書く教材を設け、国際社会の中で求められる説明能力や意思表示の重要性について意識を持てるようにしました。(第5号)</li> </ul>	→98～101ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者のいる世帯の構造の変化や、災害ボランティアに関するデータを読み取って小論文を書く教材を設け、視野を広げながら社会的な課題に興味を持てるようにしました。(第3号)</li> </ul>	→102～105ページ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラグラフ・ライティングで書かれている文章例として、食品ロスをテーマにした文章を取り上げました。(第4号)</li> </ul>	→108～109ページ
<b>6 話し合う力をつけよう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の住民どうし話し合いを例として挙げ、ファシリテーションが機能した話し合いになるような展開に書き換える活動を設け、地域社会で協力して課題解決していく力を養えるようにしました。(第3号)</li> </ul>	→116～119ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>表現と読書活動</b>	・「図書室探検」「ブックトーク」「ブック・プレゼン・ダイアログ」「ビブリオバトル」といったさまざまな設定や方法で本を紹介する活動を設け、読書に親しみ読書の幅を広げられるようにしました。(第3号)	→129～134ページ
	・本の帯やポップを作るとともに、それを見て本を読んでもくれた友達と感想を語り合うことを通して、伝え合う力を養う教材を用意しました。(第3号)	→135ページ
<b>7 情報活用力を身につけよう</b>	・今まで接してきた広報を思い出させる設問で、市の広報紙や、消防庁のウェブページを例として載せ、社会で流通している資料に興味を持たせるようにしました。(第1号)	→141ページ
	・自校の文化祭について、中学生向けと校内向けに広報誌を作成する活動を通じて、相手や目的に応じて発信形態や内容、言葉遣いを選ぶことを学習できるようにしました。(第2号)	→142～149ページ
<b>8 説得力のある提案をしよう</b>	・題材を設定して情報を調べ、説明資料にまとめる活動を通じて、社会生活に生きる表現力を養う教材を用意しました。(第3号)	→156～165ページ
	・清掃ボランティア活動による環境保全と、地域コミュニティの活性化を題材に、スライドを用いた発表をする活動により、幅広い知識や教養を身につける契機となる教材を用意しました。(第1号)(第4号)(第5号)	→156～163ページ
<b>9 表現を楽しもう</b>	・俳句や短歌を詠んだり、なりきり短歌物語やエッセーを書いたり、物語・小説を作る活動を通して、創造性を培う教材を用意しました。(第2号)	→170～181ページ
	・創作した短歌物語をグループやクラスで読み合ったり、エッセーを共同で作成したりする活動を通して、創造的な思考力を高め、伝え合う力を養う教材を用意しました。(第2号)	→173～177ページ
<b>心をつかむ表現</b>	・小説を元に楽曲を作り発表している二人組アーティストに取材した文章を取り上げ、曲作りにおける創造性、敬意を持ち協力しながら作品を完成させる態度、言葉に対する情熱などについて考えさせる教材を用意しました。(第1号)(第2号)	→188～191ページ
	・プロのスキージャンプの選手に取材した文章を取り上げ、メディアにもたびたび登場する一流のスポーツ選手でも、インタビューや仲間とのコミュニケーションに配慮し、もっとうまく伝わるよう努力を重ねていることが感じられる教材を用意しました。(第1号)(第2号)	→192～193ページ

### 3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身につけることができるように、巻末に「文の書き方」や「敬語表現」を設け、正しい表記の仕方や敬語の使い方を示しました。また「同音異義語」「同訓異義語」「三字熟語・四字熟語」「故事成語・ことわざ・慣用句」等の知識的な内容についてまとめたページを設け、語彙を増やしてより適切な表現ができるよう配慮しました。(学校教育法第51条3号)

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-32	高等学校	国語	国語表現	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	国表 702	国語表現		

## 1.編修上特に意を用いた点や特色

### ①目標

・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するという「目標」を踏まえ、「内容」に示された「知識及び技能」の2事項と「思考力、判断力、表現力等」の2領域の学習が効率的・有機的に行えるようにするとともに、「学びに向かう力、人間性等」を十分に養うことができるように配慮しました。

### ②「知識及び技能」

- ・伝える目的や場面、相手、手段に着目することの大切さを強調するとともに、適切な表現や言葉遣いを身につけられるよう、SNSでの誤解を招きやすい表現について扱ったり、分かりにくい文章を修正するワークを設けたり、文章の表記方法や適切な敬語表現についての附録を設けたりしました。
- ・思いや考えを多彩に表現するために必要な語句を増やすことができるよう、語彙の附録を充実させました。
- ・実用的な文章として、メールや手紙、履歴書、志望理由書、広報資料、広告、報告書、提案書などを取り上げ、それぞれの特徴や、必要な要素、書く際に気をつけるべきことを例文とともに示しました。
- ・比喻や反復法などの表現技法を取り上げ、これらを詩や小説など文字で表現する際や、スピーチやプレゼンテーションなど音声で表現する際に活用することで、印象づけたり、相手を納得させたりできることを示しました。
- ・言語表現を豊かにするための読書に親しみ、興味の幅を広げられるよう、読書活動に特化した単元をつくり、テーマを決めて本を紹介する活動や、本の帯・ポップを作成してお薦め本を紹介し合う活動などを示しました。

### ③「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」

- ・面接の場で自分のことを伝えたり、初対面の人にインタビューを依頼して話を聞いたり、課題解決のための話し合いの際に大切なことを考えたり、プレゼンテーションを行ったりする言語活動教材を用意しました。
- ・それらの活動を行う際、考え方や心構えとして参考になる文章を、各単元末に掲載しました。

### ④「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」

- ・小論文や志望理由書に自分の思いや考えを書いたり、報告書を書いたり、その報告書を目的や読み手に合わせて広報資料に書き換えたり、インタビューを依頼するための電子メールや手紙を書いたり、提案書を書いたり、初対面の人にインタビューしたことをまとめたりする言語活動教材を用意しました。
- ・それらの活動を行う際、考え方や心構えとして参考になる文章を、各単元末に掲載しました。

## 2.対照表

単元	教材名	学習指導要領の内容			頁	配当時数			学期
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等			話	書	計	
			話すこと・聞くこと	書くこと					
表現とは何か	表現とは何か	(1)ウ、エ	(1)ウ、エ、カ	(1)ウ、カ	4	1	1	2	1 学期 52
1 分かりやすく説明しよう	分かりやすく説明しよう	(1)イ、ウ	(1)ア、ウ、エ	(1)カ	16	5	4	9	
	接続の言葉	(1)ア、エ	(1)イ	(1)イ、エ	28	0.5	0.5	1	
	SNSでのトラブル回避のために	(1)イ、ウ		(1)オ、カ	32		1	1	
2 身体で表現しよう	身体で表現しよう	(1)ア、ウ	(1)エ、カ		34	9		9	
3 「問い」を考えよう	「問い」を考えよう	(1)ア、イ	(1)ア、エ、カ／(2)ウ	(1)ウ、オ／(2)カ	46	5	5	10	
	電話のかけ方・メールの書き方	(1)イ、エ	(1)ウ、エ、カ／(2)イ	(1)ア、ウ、オ／(2)エ	50	1	1	2	
	手紙の書き方	(1)イ、エ		(1)ア、ウ、オ／(2)エ	52		1	1	
	「問い」の活用	(1)イ、ウ	(1)イ、エ	(1)エ、カ	60	0.5	0.5	1	
4 「自分」を表現しよう	「自分」を表現しよう	(1)イ、ウ、エ	(1)ア、イ、ウ、エ、オ／(2)ア	(1)ア、イ、ウ、エ、カ	66	6	10	16	
5 論理的な文章を書こう	論理的な文章を書こう	(1)イ、ウ、エ		(1)ア、イ、ウ、エ、カ／(2)ア	82		20	20	
	文章修正ワーク	(1)ア、イ		(1)エ、カ	94		2	2	
	パラグラフ・ライティング	(1)イ、エ		(1)イ、エ	108		1	1	
6 話し合う力をつけよう	話し合う力をつけよう	(1)ア、イ	(1)イ、エ、オ、キ／(2)エ		112	10		10	
表現と読書活動	表現と読書活動	(1)イ、ウ／(2)ア	(1)ア、ウ、エ、カ、キ／(2)ア	(1)ア、ウ、オ	128	5	5	10	
	広告・PRの表現	(1)ウ、オ／(2)ア		(1)ア、ウ、オ	136		1	1	
7 情報活用力を身につけよう	情報活用力を身につけよう	(1)ア、イ	(1)キ	(1)ア、ウ、オ、カ／(2)ウ	140	1.5	10.5	12	
	報告書の書き方	(1)イ、エ		(1)イ、エ／(2)イ	150		1	1	
8 説得力のある提案をしよう	説得力のある提案をしよう	(1)ア、イ	(1)ア、イ、エ、オ、キ／(2)オ	(1)イ、エ	154	4	6	10	
	提案書の書き方	(1)イ、エ		(1)ア、イ、エ／(2)オ	164		1	1	
9 表現を楽しもう	表現を楽しもう	(1)ウ、オ／(2)ア		(1)ア、ウ、オ、カ	168		15	15	
	レトリック	(1)ウ、オ	(1)エ	(1)オ	182	0.5	0.5	1	
心をつかむ表現	心をつかむ表現	(1)ウ、オ／(2)ア	(1)イ、エ、オ、キ	(1)オ	188	1	3	4	
合計						50	90	140	2 学期 57
									3 学期 31